初心者の柔 道 事 故 事 例 （平 成 ２９ 年）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 日時・場所 | 受傷者  診断名 | 指導者 | 事故状況 | 全柔連「安全指導の資料」  の認識度 | その後の経過等 |
| １ | ５月下旬  高校柔道場 | 高１男子  無段  4月入部  柔道歴１カ月  診断名  脳脊髄液減少症 | 指導員3段  指導歴約40年 | 部活練習中  乱取中に相手（同じく柔道初心者）から大外掛（通称）をかけられ、同体で倒れた際に頭を打った。 | 「大外刈段階的指導手順例」は見ているが、「柔道練習ステップ」は知らなかった。 | 事故後から通学はしているが、頭痛が続くために複数回の手術を受けており、受傷から10カ月が経過した時点でも症状は改善されず、学業にも支障が大きいとのこと。  学校側の対応には納得していない。 |
| ２ | 10月下旬  高校柔道場 | 高1女子  無段　重量級  9月入部  柔道歴１カ月  診断名  中心性脊髄損傷 | 指導員3段  指導歴約6年 | 合同稽古中  初心者なので生徒同士の乱取は禁止されており、見学していた。他校指導者に促されて、乱取に参加。背負投をかけてきた他校生徒（女子初段軽量級）が潰れたためを頭から畳に落ちた。起き上がることができず救急搬送。 | 「柔道練習ステップ」や全柔連が発信している安全指導に関する通知は十分に把握していなかった。 | 1カ月以上入院した後に復学したが、受傷から5カ月が経過した時点でも麻痺があり、リハビリテーションを続けているとのこと。  学校側の対応には納得していない。 |

初心者の事故防止・安全指導の徹底事項

(1) 初心者には少なくとも3ヶ月程度は乱取り、高い位置からの投げ込みを行わせないこと。

※重大事故は柔道を習い始めた初心者に起こる確率が極めて高い。

(2) 初心者には大外刈りの投げ込みを受けさせないこと。

※柔道事故の頭部打撲は、大外刈りによるものが多く、特に、受け身の未熟な初心者が頭部打撲による障害を負う危険が極めて高い。

(3) 「柔道練習ステップ」「大外刈り段階的指導手順」等を参考にして無理のない計画的な練習メニューを作成すること。

　※詳しくは、全柔連ＨＰ「安全指導の資料」を参照してください。